



ENEOS

証券コード 5020

2025年5月12日

ENEOSグループ

企業価値向上に向けた取り組みの状況

ENEOSホールディングス株式会社

企業価値向上に向けた取り組み 進捗状況

1

- 2024年度は、JX金属上場を通じた事業ポートフォリオ再編、自社株式の取得による最適資本構成の追求、製油所トラブル削減をはじめとした収益力強化など、持続的な企業価値向上に向けた取り組みを実行
- 各種取組みを通じて、**在庫影響を除いた実質的なROEは着実に改善しているものの**、継続的に株主資本コストを上回る状態とは言えず、PBRは1倍を下回る水準が継続

2024年度に実施した主な施策

■ JX金属の上場

金属事業の価値を顕在化、コングロマリットディスカウントを解消

■ 自社株式の取得・消却

資本効率の向上、中長期の企業価値の最大化の観点から
23～24年度累計で2,500億円の自社株式を取得

■ 製油所トラブル削減 UCL：9%（22年度）→ 5%（24年度）

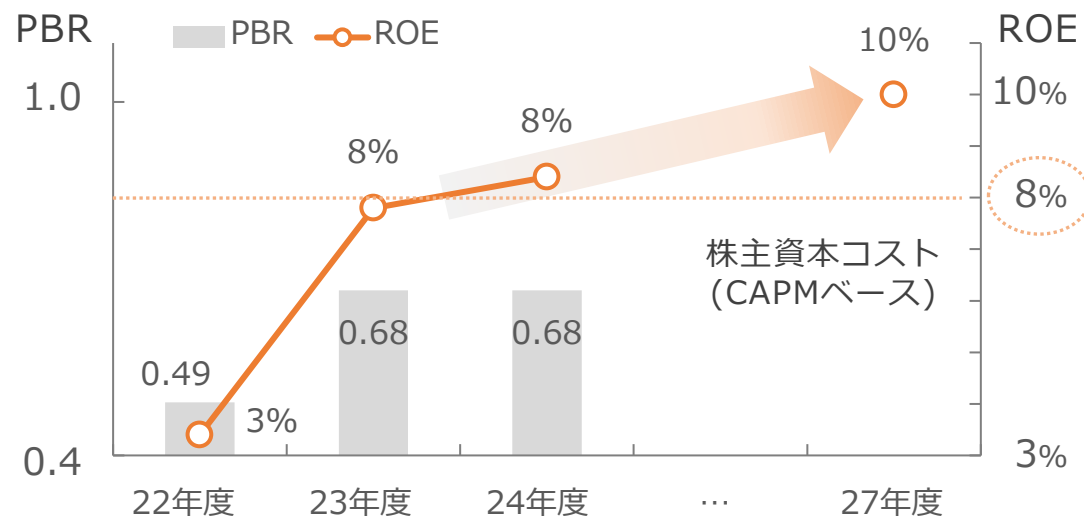
検査前倒し・工事品質強化等により着実に改善

■ 五井火力発電所の運転開始

最新鋭・高効率の発電設備により調達コスト良化に貢献

■ ビジネスプロセス改革 23～24年度累計 1,300億円の収益改善

PBR・ROE(在庫影響除き)推移



$$PBR = 1 + \frac{\text{エクイティスプレッド (ROE - 株主資本コスト)}}{\text{株主資本コスト - 期待成長率}}$$

企業価値向上に向けた取り組み

2

- PBR 1 倍超に向けて、徹底的な効率化による既存事業の収益最大化、厳選した投資の実行による事業ポートフォリオ再編等の第4次中期経営計画に包含される取り組みを通じて、ROIC改善を推進

2025年度以降の主な施策

ROIC改善

■ 徹底的な効率化の推進

- ・ グループ会社を含め徹底的な見える化を通じ収益改善機会を追求
- ・ 業務全域でのAI活用推進を通じ圧倒的な業務効率向上等を実現

■ 製油所稼働率の最大化

- ・ 適正な補修費投入と信頼性向上施策を通じ、27年度に定修除き稼働率90%を目指す

■ 生産・供給体制の再構築

- ・ 川崎エチレン装置 1 基停止の検討
- ・ 横浜製造所 潤滑油生産停止、他所移転検討

■ 海運事業の一部譲渡

- ・ 船価高騰による投資負担増や環境規制の強化等の課題に対応するためベストオーナーへ譲渡

■ 厳選した投資の実行による早期収益化事業（海外燃料油事業等） 低炭素事業（LNG・バイオ燃料等）の拡大

- ・ 海外燃料油事業：海外アセット獲得を通じた事業拡大 （トレーディング事業
バイオ燃料等）
- ・ ジェット燃料：インバウンド需要増に対応した供給体制強化
- ・ LNG：長年の実績・知見を有する東南アジア・オセアニアにて追加投資
- ・ SAF：28年度以降に40万KL/年の自社製造体制を構築

企業価値向上との連動を意識した役員報酬制度への見直し

- ・ 株式報酬の算定指標にTSRを導入※
中長期的な収益性および株主との価値共有をより重視

株主還元の強化（配当水準引き上げ）

- ・ 第4次中期経営計画達成への強い決意を込めて30円/株への増配、30円/株を起点とする業績に応じた累進配当導入を決定

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、
実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化
- (3) 訴訟等のリスク

などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。